



# 松川事件の冤罪暴いた元『毎日』の倉嶋康さん

イラストレーション／信濃八太郎

『冤罪の構図 松川事件と「諏訪メモ」と題した約100ページの冊子を読んだ。元『毎日新聞』記者の倉嶋康さん(89歳)の回顧録だ。

松川事件とは、1949年8月17日未明、福島市に近い旧国鉄東北本線松川駅付近で旅客列車が脱線転覆し、乗務員3人が死亡した事件。人為的な線路破壊が原因だった。捜査当局は人員整理に反対する国鉄労組員と当時現場近くに松川工場があった東芝労組員の共



「諏訪メモ」の特ダネ記事(1957年6月29日付)のコピーを手にする倉嶋康さん。

同謀議による犯行と断定。計20人が逮捕、起訴された。大半が共産党員だった。

50年の一審判決では5人に死刑、5人に無期懲役、10人に有期懲役が言い渡された。53年の二審判決で、死刑4人、無期懲役2人、有期懲役11人、無罪3人とされた。

『毎日』福島支局の記者だった倉嶋さんは57年、二審無罪の3人の国賠訴訟の法廷取材をした。うち1人は銭湯で会う知人だった。数日後この知人から、死刑判決を受けた佐藤一被告のアリバイを立証できる証拠(団交記録)があると聞いた。共同謀議があったとされた時間に、佐藤被告は東芝の松川工場での団交に出ていたというのだ。「団交記録が見つければ冤罪だ」「1人にアリバイがあったら、事件は根底から覆る」と考えた。弁護士が団交記録(諏訪メモ)を探していることがわかり、その原

稿を仙台支局を経由して本紙に出稿。ところが記事は没。仙台支局員が本社に「ツマラナイものです」と説明していたことが判明した。翌日、「朝日新聞」の全国版に同様の記事が出た。

だが、「麻雀」が倉嶋記者を救った。福島地検次席の官舎で牌を囲んだ際、倉嶋記者が「朝日には参ったな」と独り言を言うと、次席検事が「あれは、ちゃんとしたところにある」と呟いた。その言葉から、「団交記録は検察にある」と判断。翌日の朝から福島地検内を嗅ぎまわり、地検郡山支部長が検事正室に入ったことなどから、団交記録を返却しに来たことを知った。そして、宮本彦仙(みやもとひこせん)検事正に確認した。検事正は倉嶋記者の質問に対し、団交記録の現物は見せなかったものの、佐藤被告が午前中団交の場にいたことが記録されていることなどを教えた。

## 特ダネの経緯が冊子に

倉嶋記者はこの特ダネを本社側に潰されないように、あえて福島県版のトップにした。そして、この団交記録が決め手となり、検察のシナリオが崩壊した。

59年8月、最高裁は原判決を破棄し、仙台高裁へ差し戻した。61年8月に高裁は全員に無罪を言い渡し、63年9月に最高裁で無罪判

決が確定した。

2月28日、神奈川県相模原市に住む倉嶋さんに会った。「隠さなかった検事正もすごいですね」と聞くと、倉嶋さんは「剛直で、曲がったことが許せないという人でした」と回想した。

『毎日新聞社会部』(河出文庫、2012年)や『現代史の目撃者』(光人社NF文庫、2017年)で、この特ダネのことは紹介されている。しかし、本人はこれまで回顧録を発表してこなかった。「自分のことを自慢するな」とおやじに言われて育ちました。しかし、『諏訪メモ』がどうして出てきたのか。私しか書けないので、字にしておこうと考えました。

そして2020年10月から21年6月までフェイスブックで、124回の連載をした。それを読んだ『毎日』活版OBで、「北大生・宮澤弘幸」『パイ冤罪事件』の真相を広める会(パイ冤罪事件)の事務局の福島清さん(83歳)が「多くの人に伝えたい」として昨年11月に同会で冊子にした。現代史の貴重な資料となるだろう。

冊子『冤罪の構図 松川事件と「諏訪メモ」』は、同会(03・3264・2905 担当・水久保文明さん)で、1000円(送料込み)で販売している。

うえむら たかし「週刊金曜日」発行人。